

令和元年度

事業所名： グループホーム 城山の杜 2丁目

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392900031		
法人名	株式会社 信樹会		
事業所名	グループホーム 城山の杜 2丁目		
所在地	〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-5-1		
自己評価作成日	令和元年10月4日	評価結果市町村受理日	令和元年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三陸縦貫道路が6月に開通し遠方までの外出や通院も時間短縮で行けるようになりました。医療面では定期的な往診があります。また、24時間看護師に連絡ができ急変時の対応もでき安心して暮らしができます。本人、家族の希望により看護、医療機関と連携し看取りも実施しています。ユニットにおいては理念にもあります一人一人の意思と人格を尊重する事と安全、安心、衛生を図るという点を重点に常に意識し支援いたしております。支援される立場に置かず助けたり助けられたりの関係を築き自立に向けた支援に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0392900031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、三陸縦貫自動車道の大槌インターチェンジに近く、復興事業が進んだ近隣には、医療機関、学校、警察署、郵便局、コンビニがあり利便性が高い場所に立地している。今年度は、運営推進会議委員からの提案があった「誤薬の防止」について取り組み、成果をあげている。利用者の健康状態、認知と行動の状況等の評価項目について、居室担当職員が毎月評価項目に沿って客観的な評価を行い、その積み上げの下で、3ヵ月毎のモニタリングを実施、6ヵ月毎に管理者が原案を作成し、ケアマネである施設長と協議し介護計画を見直すなど、利用者主体の介護について積極的かつ具体的に取り組みが図られている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年11月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム 城山の杜 2丁目

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ室に提示し常に意識し実践につなげるよう努めている。また介護記録にも綴り確認と振り返りができるようにしている。	開設時に定めた、理念・運営目標は、両ユニット共通のものとして、現在も掲げられている。職員は、利用者の意向を尊重した支援であったかについて、介護記録に記載しながら一日を振り返るなど、理念、運営方針は、日々の介護の在り方を職員に意識付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	三陸道路で近所の方が1件しかいなくなった。地域、近隣の町の中学生が職場体験に来ている。	自動車道路の建設に伴い、移転等でご近所が一世帯だけになったが、近傍の小中学校の児童・生徒が毎年の恒例行事として、小学生は利用者と一緒にゲームに興じ、中学生は職場体験を行っている。また、地域の傾聴ボランティアが毎月訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談に来た人や入居者の家族に対し認定手続き等アドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居状況、事故報告、入居者の生活の様子、行事報告、看護からの報告を行い意見をいただいた事を報告書として職員に回覧し現場に活かしている。	地域住民、家族、地域包括支援センターを一含む行政関係者、町議会議員の7名を委員に委嘱し、奇数月の第三週の火曜又は木曜と予め明示して開催している。利用者の生活状況やヒヤリハットなどについて詳細な報告を行い、委員から提案があった「誤薬の防止」について、現在、事業所を挙げて取り組んでいる。	地域との関わりを強化していくためにも、現在委員を委嘱している地域住民に加え、自治会が存在しない中で地域の中心的役割を果たしている民生児童委員の委員就任を実現されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例は相談にのっていただいている。	各種会議や窓口で行政と情報の共有等を図っている。町からは、事業所が介護を継続する上で必須となる利用者の身元引受人の選任等、家族関係が複雑に絡む困難な事例の解決に向けて、親身になった指導・助言を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修会での研修や3ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し職員に回覧で周知し身体拘束ゼロに向けて取り組んでいる。	事業所として、昨年7月に「身体拘束排除宣言」を行い、両ユニットの玄関に事故報告の区分等とともに掲げている。既に指針を定め委員会を開催し、職員研修も定期的に行っている。利用者が事業所裏手の山に一人で入ると危険なため、家族の了解を得て玄関を施錠している。毎月の全体研修会では、スピーチロック防止を取り上げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉づかいについては気になる時は注意し身体的はもちろんスピーチロックも気を付けるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に行った職員が報告書で回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し理解、納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に話しをし意見、要望があれば聞いて応えられるよう努めている。	家族が来訪した際に聴き取った意見・要望や利用者の会話の中から把握した希望は、職員で構成する調理、行事、防災等の五つの委員会で協議して、具体化されている。家族からは「出来ることは本人にやらせて」と、入居者からは「おやつ」等に対する声が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体研修会やユニット会議での意見は協議し取り入れるよう努めている。	毎月の全体研修会、ユニット会議、年度末の個人面接で、職員の意見・要望を把握している。日常の介護の工夫や備品の更新、行事の在り方など、事業所運営の改善に役立っている。職員のキャリアアップの一環として、資格取得等に対する支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の実績、努力に応じて評価されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修を行っている。外部研修にも経験年数に応じ参加し他職員にも回覧で周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度より町内の同業者が集まる研修会が設けられ交流の場となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく暮らしていただくために職員との会話を多くし思いを引き出し安心できるよう環境作りに努めている。ホールの席の配置も配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に様子を報告し要望、不安がないか伺い一緒に支援する関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援の優先順位を見極めそれに沿う支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやっていただき助けたり助けられたりし共に暮らしている関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月城山通信で近況を報告し面会時に相談したり途切れないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院への送迎を実施している。友人、知人の面会、外出も途切れないよう支援している。	事業所の外との係わりを持っている利用者が多く、友人の面会、手紙、電話の取次ぎなど、その関係の継続を支援している。また、町民文化祭に書道の作品を出展した利用者は、毎週、以前からの趣味の友人と出掛け、介護度が低い複数の利用者は、携帯電話を自己管理し居室で使用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係、状況に合わせて席を決めている。関わりがもてるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴や会話にて希望、意向の把握に努め記録に残し共有している。困難な場合は表情等で汲み取るようにしている。	職員が寄り添って傾聴した、或いは家族からの情報を交えて把握した利用者の思い等は、個人記録に記載するとともに、申し送りノートを通じ共有されている。車椅子利用者もその希望に沿って、職員の見守りの下で、事業所内で自分の力で好きなように動き、行きたいところに行けるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に聞き取り把握に努めこれまでと同じ暮らしに近づけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクへの参加、居室で臥床する時間帯、排泄パターン、食事形態、食事量等をそれぞれ把握し支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ユニット会議を行い現状と問題点を協議し実践し介護計画に反映させている。	入居時は、予め把握した利用者の基本情報をもとに介護計画を作成し、その後は、利用者の健康状態、認知と行動の状況等の評価項目について、居室担当職員が毎月自己評価を行い、その積み上げの下で、3ヵ月毎のモニタリングを経て、6ヵ月毎に管理者が原案を作成し、ケアマネである施設長と協議して介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	訴えや本人の言葉は記録し毎朝、毎夕申し送りをし状態を把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ通院介助を行っている。欲しい物があれば依頼買い物で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練、職場体験、傾聴ボランティア等交流する機会がある。まだ町は復興途中だが今後更に発展していこう地域資源を活用していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で以前からの病院に通院している方もいる。通院にご家族の方が来れない時は急を要する時は電話で報告しその他は毎月の城山通信で報告している。 毎週水曜日の協力医の往診がある。	かかりつけ医は、入居時にこれまでの主治医と協議し差支えが無ければ2週に1回受診出来る事業所の協力医に変更している。町内外の特別科等の受診には、事業所の看護職員と家族が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつでも24時間連絡できる体制にあり報告、相談ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院と看護で連絡をとり合い介護職も共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の意向は契約の段階で聞いている。看取りを希望された場合出来る事と出来ない事を十分説明している。カンファレンスで方針の確認、共有を行いユニット全体で取り組んでいる。	重度化に伴って医療を要する場合には隣の市の県立病院に搬送しているが、看取り搬送はない。訪問診療の協力医と事業所内看護師の体制で、昨年は3名、今年も既に2名の看取り介護を行い、看取りのために家族も居室で寝起きしている。職員は必要な研修を受講し、看取り後は、その都度、職員との話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受講し急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方にも参加していただき日中、夜間想定 の火災避難訓練、風水害時の訓練を行っている。水、食料、オムツ類も備蓄している。行政の災害時の判断は早めのため施設判断の見極めが重要となっている。	火災避難訓練は、消防署員の立ち合いで年に2回実施している。災害の発生が想定される場合には、町から予め避難準備情報発令見通しの連絡があり、施設長の判断で早期に対応している。台風15号襲来の際には、ポータブルトイレを携帯しながら、冠水する道路を通過して近隣の大槌学園に全員が避難している。東日本大震災では、川を遡上した波が海岸から離れた事業所の前まで押し寄せており、防災に対する事業所の意識は高い。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいは優しく心を掛けている。特に入浴、排泄はプライバシーを損ねないよう気を配っている。運営理念である一人一人の人格尊重を念頭におき日々支援している。	人格の尊重は、運営理念の第一に掲げる事項とし、利用者のプライバシー侵害を防止するため、全体研修会で徹底している。利用者のプライバシー確保のため、職員は利用者と一緒にトイレへ誘導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ふだんから会話を多くし言いやすい関係作りに努めている。自分で自己決定できるよう聞きながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合ったその日をどのように過ごしたいか希望に沿って支援し過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝癖や髭剃りは毎日声掛けし清潔感に気を付け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり味付け、盛り付け、片付けを一緒に行っている。誕生日には本人が食べたい物を聞き取りし提供している。	職員の「調理委員会」が旬の食材を利用し、変化を持たせながらワンパターンにならないような献立を立てている。土地柄もあり、利用者の希望で毎日魚を提供している。買い出しは職員が毎週2回行っている。お正月のなます、お花見のちらし寿司や誕生日に出る赤飯等の希望メニューは好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、食事形態は個々の状態に合わせている。毎日の記録にも水分と食事量は記録している。食欲がない方は栄養補助食品をも取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて出来ない所を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックしパターンを把握し声掛けや誘導を行い出来る所は自分でやっただき自立に向けた支援をしている。	一丁目で5人、二丁目で9人が自立している。利用者の仕草や排泄パターンに沿って声掛けしている。おむつ使用者もトイレを使用している。職員は利用者の行動を見守りながら、何気なく側に寄り添い、自然にトイレに行けるよう、自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳を飲んでいただいたり野菜を多く摂っていただくようメニューを考えている。デザートはヨーグルトを多く取り入れている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが体調や気分に応じ対応している。	週に2、3回午後の入浴としている。シャンプー等の用品は事業所で用意しているが、家族が持ってきたお気に入りのものを使っている利用者もいる。15分から20分の入浴時間は、歌を唄ったり、職員と二人で話しをする又とない傾聴の時間となっている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、湿度の確認を行い快適に入眠できるよう支援している。夜に眠れない方はお話を聞いたり甘酒や温かいホットミルクを提供し安心して眠れるよう支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録に薬の説明書を添付いつでも確認できるようになっている。誤薬のないようスタッフ同士で確認し配膳時に名札を置き服薬する時に名札を確認し入念に行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事に合わせお手伝いをお願いしている。外食、ドライブ等で楽しみや気分転換を図っている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で出かける際は本人に意思決定をまかせている。自動車道の開通に伴いレク時の移動時間の短縮にて今までより遠方への外出が出来ようになった。	外気浴は、プランターへの水遣りと、季節が良ければその日のお天気と体調をみての10分程度の散歩としている。春のお花見は釜石の小川体育館に、秋の紅葉狩りは山田町に、何組かに分かれて出掛けている。インフルエンザの心配もあり、これから冬に向かって外出を控えている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理している方もいるがほとんどの方が事務所で管理し欲しい物、必要な物がある時は依頼買い物で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればやり取りできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけている。居室で過ごす時間が長い方はレースのカーテンをし光の調節を行っている。温度と湿度は全室エアコンで調節している。	二つのユニットは、仕切りを外した一体的な広いホールとなっており、それぞれの台所が向かい合って配置されている。壁には、敬老会の写真やちぎり絵が飾られ、リース飾りやモールが季節感を醸し出す役割を果たすとしている。ユニット毎に大きなテーブルが置かれ、利用者はお気に入りの椅子に座り、事実上の指定席となっている。エアコンと毎週清掃している加湿器で快適な環境を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファもあり気の合う同志や一人でも過ごせたりするようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明し持ち込んでいただいている。混乱する方は置かないようにしている。	居室は、エアコン、洗面台、ベッド、収納棚が備えられ、お気に入りの写真を飾り、仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。多くの利用者はテレビを持ち込み、居室で楽しんでいる。窓に架けられたレースのカーテンが、一層落ち着いた親しみのある居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室には場所や名前を掲示し自立に向けた生活ができる支援に努めている。		